

TOSHIBA



SSD Utility

インストールガイド

ソフトウェアバージョン 3.n

目次

はじめに	1
主な機能	1
システム要件	1
SSD Utility のインストール	3
Windows®または Linux®での SSD Utility のインストール	3
ブート可能な USB フラッシュドライブの作成	3
SSD Utility の起動	4
UI の概要	5
SSD Utility のアンインストール	6
SSD Utility の機能	7

© 2018 東芝メモリ株式会社. All Rights Reserved. 方法や形態を問わず 東芝メモリ株式会社 からの書面による許可なしに、本ドキュメントのいかなる部分を複製することも、派生著作物 (翻訳、変形処理、改作など) の作成のために使用することも禁止します。

通知

本ガイドに含まれる情報は、予告なく変更される可能性があります。東芝メモリ株式会社およびその関連会社 (「東芝」) は、本マニュアルまたはここに記載されたその他の情報に関する保証は一切提供しないものとし、それらに関連して、特定目的に対する商品性または適合性についての一切の黙示の保証をここに明示的に否認します。東芝は、本ガイドに含まれている技術的な誤りまたは誤字脱字、あるいは対象製品とガイドとの間の不一致などから直接的または間接的に発生した損害について、一切の責任を負わないものとします。いかなる場合も、東芝は、それらが不法行為、契約、その他に基づくものであれ、本ガイドまたはここに記載されたその他の情報、またはその使用から、もしくはそれらに関連して発生した偶発的、結果的、特異的、典型的な損害に関する責任を一切負いません。

免責事項

本アプリケーションを使用することによって生じる損害・損失に関して、当社は一切の責任を負いません。本アプリケーションは「現状有姿」にて提供されるものとし、いかなる保証も付されません。前記に制限されることなく、東芝は、商業性の保証、目的適合性の保証、あるいは第三者の権利の非侵害の保証を含め、明示的にも黙示的にも、アプリケーションに関わるいかなる保証も致しません。東芝は、アプリケーションの動作が中断しないことも、エラーがないことも、安全であることも保証致しません。インストールまたは、アプリケーションの使用は、お客様ご自身の責任で行ってください。

商標について

OCZ は東芝メモリ株式会社およびその関連会社の商標または登録商標、またはその両方です。Microsoft および Windows、および Windows Server は米国およびその他の国におけるマイクロソフトコーポレーションの登録商標または商標、またはその両方です。Linux は米国およびその他の国における Linus Torvalds の登録商標です。Linux Mint は Linux Mark Institute の商標です。Macintosh、Mac および OS X は米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。UEFI は Unified EFI Forum, Inc の商標または登録商標、またはその両方です。Red Hat は米国およびその他の国における Red Hat Inc. の登録商標です。Oracle は Oracle およびその関連会社の登録商標です。その他の商標はすべて、各所有者の財産です。

インストールに関する技術サポート

東芝メモリ株式会社 製品には、無償の技術サポートが含まれており、専門家の助言を直接受けることができます。インストールに関する技術サポートについては、<https://support.ocz.com/> からお問い合わせください。

文書識別情報: INSTL-GUIDE-SSD-UTLTY 第 2 版 (2018 年 4 月)

ソフトウェアバージョン: 3.n

はじめに

SSD Utility では、SSD を管理し、最大限に活用することができます。

主な機能

SSD Utility では、以下を行うことができます。

- SSD のステータスのダッシュボードビューの表示
- SMART 属性の詳細ビューの表示
- SSD ファームウェア、BIOS、およびデバイスドライバの更新
- オーバープロビジョニングの管理
- オペレーティングシステムの最適化
- データを回復不能にするための Secure Erase
- SSD、コンピュータ、SSD Utility の詳細なビューおよびログの問題診断における技術サポートを支援
- ドライブの正常性、信頼性、温度に関する問題のアラートを受信
- 簡単なベンチマークの実行によるドライブパフォーマンスの評価

SSD Utility の機能の詳細については、7 ページの「SSD Utility の機能」を参照してください。

システム要件

サポートされる SSD には以下があります。

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| • RevoDrive ファミリー、RD400 | • Saber 1000 |
| • Vector ファミリー、VT180 | • Deneva 2 |
| • Vertex 4n0 ファミリー | • TL100 |
| • Arc ファミリー | • TR200 |
| • Trion ファミリー、TR150 | • VX500 |
| • Intrepid 3000 ファミリー | • XS700 |
| • Z-Drive 4500 | • RC100 |
| • Z-Drive 6000 ファミリー、ZD6000 ファミリー | |

サポートされるオペレーティングシステム：

- Windows® 10 x64
- Windows® 8.1 x32, x64
- Windows® 7 x32, x64
- Linux ディストリビューション：
 - Fedora® 26, 27
 - Mint 18.1, 18.3
 - Ubuntu® 16.04LTS, 17.10



注意: インストールを開始する前に、SSD 上の保存しておきたいデータのバックアップコピーを必ず作成してください。一部の操作では、SSD 上のデータが完全に失われます (そのような場合、あらかじめ警告が表示されます)。



SSD Utility をご使用になる前に、以下をご確認ください。

- Windows® および Linux®: マザーボード BIOS で SATA コントローラを AHCI モードに設定します。この手順については、コンピュータのユーザーマニュアルを参照してください。
- Windows®: NVMe™ SSD を使用する際、SSD Utility の全機能を有効にするには、Toshiba NVMe™ デバイスドライバをインストールします。
- SSD Utility を管理者として実行する必要があります。
- ファームウェアまたは BIOS の更新には、コンピュータがインターネットに接続されている必要があります。

SSD Utility のインストール

このガイドでは、SSD が既に正しくインストールされていることを前提としています。以下のことを行うことができます。

- Windows®またはLinux®での SSD Utility®のインストール
- ブート可能な USB フラッシュドライブの作成。これにより、オペレーティングシステムではできないことができるようになります。例えば一部の SSD では、システムブートドライブの場合ファームウェアをアップデートすることができません。

Windows® または Linux® での SSD Utility のインストール

Windows® - インストーラを実行し、画面上の手順に従います。

Linux® - **tar xvf SSDUtility_version.tar.gz** を使用して、tar.gz ファイルから実行可能ファイルを抽出し、それを実行するコンピュータ上の場所にコピーします。

ブート可能な USB フラッシュドライブの作成

USB フラッシュドライブを使用して、SSD Utility のスタンドアロンのブート可能バージョンを作成することができます。このバージョンは、Windows®、Linux®, または Mac® システムで使用して SSD Utility を起動することができます。これらの手順は、ユーザーが記載されたアプリケーションを熟知し、関連するユーザーマニュアルにアクセスして全手順を確認することができることを前提としています。



注意: インストールを開始する前に、SSD 上の保存しておきたいデータのバックアップコピーを作成してください。この操作中には、フラッシュドライブ上のデータはすべて消去されます。

USB ドライブは、FAT32 として自動的にフォーマットされます。このフォーマットにより、ドライブに保存されたファイルはすべて、Windows®, Linux®, または Mac® システムから簡単に読み込むことができます。

SSD Utility 内からサポートパッケージを保存する場合、サポートパッケージはデフォルトで USB ドライブ上の support_packages フォルダに保存されます。

ブート可能 SSD Utility

USB フラッシュドライブに **Windows®** および **Linux®** で SSD Utility のブート可能なバージョンを作成するには、標準の SSD Utility ソフトウェアを実行します。

- 1 (UI レイアウトの詳細については、5 ページの「UI の概要」を参照してください。) オプションバーで、メンテナンスを選択してから、タスクリストでブート可能 **SSD Utility** を選択します。
- 2 作成 をクリックします。

Mac OS X® 10.11 (El Capitan) 以降で USB フラッシュドライブに SSD Utility のブート可能バージョンを準備するには、<https://support.ocz.com/customer/portal/articles/2241497-how-do-i-create-a-bootable-ssd-guru-usb-drive-in-mac-os-x-10-11-el-capitan-and-later-> に記載された手順を参照してください。

SSD Utility の起動

Windows® オペレーティングシステム

アプリケーションとともに、SSD Utility へのショートカットがインストールされています。例えば、スタートメニューの **Toshiba Corporation - SSD Utility** の下にあります。これをクリックして SSD Utility を実行します。

Linux®オペレーティングシステム

SSD Utility をコピーしたフォルダに移動して、実行可能ファイルをダブルクリックします。

- ① ヘルプの下にあるサポートボタンとフォーラムボタンが Linux® ディストリビューション上のブラウザで正しく開かない場合は、代わりに以下のコマンドラインを使用して SSD Utility を実行します。

```
su - -c "$PWD/SSDUtility"
```

Windows® または Linux® のブート可能メディア

- 1 システムに USB フラッシュドライブを差し込んでから、再起動します。
- 2 USB フラッシュドライブからブートするように BIOS を設定します。システムの該当するユーザーマニュアルを参照してください。BIOS で UEFI® とレガシーブートの両方がサポートされている場合は、最初にレガシーブートを選択します。レガシーブートで問題が発生する場合は、UEFI® のみを使用する必要があります。
- 3 ブートプロセスの開始時には、SSD サポートと SSD サポート（セーフモード）のオプションを含むメニューが表示されます。数秒後、**SSD** サポートが自動的に選択されます。
- 4 システムがブートされたら、SSD Utility が自動的に起動されます。5 ページの「UI の概要」を参照してください。
- 5 PC がワイヤレスインターフェイスを使用して接続されている場合、インターネットから SSD ファームウェアまたは BIOS を更新するには、更新を許可するようにワイヤレス設定を構成する必要があります。有線ネットワークに接続されていない場合、システムの起動時に接続を行うよう促されます。

- ① 手順 3 の後、コンピュータが正しくブートしない場合は、**SSD** サポート (セーフモード) を選択して手順を繰り返します。SSD サポートの場合と同じ機能が使用できますが、システムはそれよりも低いグラフィック解像度で実行されます。

Apple® Macintosh® ブート可能メディア

- 1 システムをシャットダウンします。
- 2 ブート可能な USB フラッシュドライブを差し込み、Mac® を起動します。
- 3 画面がオンに切り替わったら（黒の画面がグレーになったら）、ブート可能なドライブがリストされるまで、**Option (Alt)** キーを押したままにします。USB アイコン（下に例示）が表示されます。これには数秒から最大数分かかる場合があります。**Option (Alt)** キーを押し続けてください。

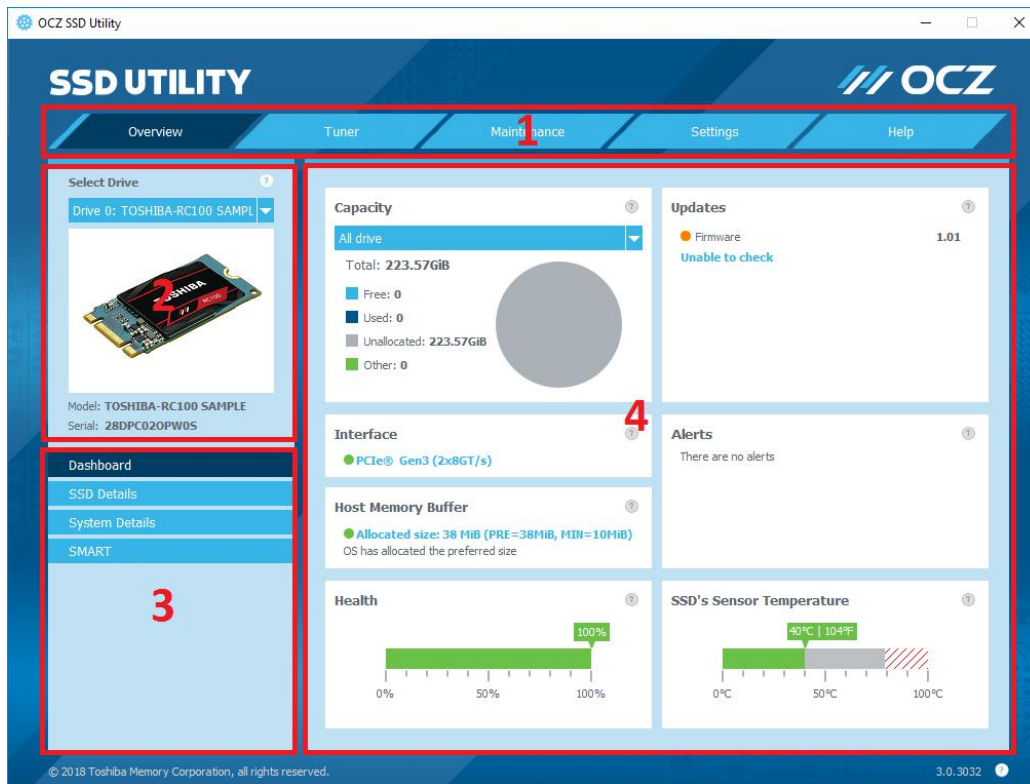


- 4 ブートプロセスの開始時には、SSD サポートと SSD サポート（セーフモード）のオプションを含むメニューが表示されます。数秒後、**SSD** サポートが自動的に選択されます。
- 5 SSD Utility が起動されます。5 ページの「UI の概要」を参照してください。
- 6 Mac® がワイヤレスインターフェイスを使用して接続されている場合、インターネットから SSD ファームウェアまたは BIOS を更新するには、更新を許可するようにワイヤレス設定を構成する必要があります。有線ネットワークに接続されていない場合、システムの起動時に接続を行うよう促されます。

- ① 手順4の後、Macが正しくブートしない場合は、**SSD サポート (セーフモード)** を選択して手順を繰り返します。SSD サポートの場合と同じ機能が使用できますが、システムはそれよりも低いグラフィック解像度で実行されます。

UI の概要

SSD Utility ウィンドウは項目別に表示枠に分割されています。



- 1 オプションバー - 実行できる主要なタスク。ここでクリックするものに応じて、メイン表示枠での表示内容が変わり、追加のタスクがドライブルスト表示枠に表示されます。
- 2 ドライブの選択リスト - 現在のコンピュータに接続されている SSD のリスト。コンピュータに SSD が 1 つのみ接続されている場合は、それが自動的に選択されます。複数の SSD が接続されている場合は、オプションバーでオプションをクリックする前に、必要な SSD を選択してください。
- 3 タスクリスト - 実行できるタスク。タスクのステータス情報。
- 4 メイン表示枠 - 要求した情報、またはタスクのフィールドが表示されます。

ブート可能 SSD Utility のタスクバー

ブート可能 SSD Utility では、画面の下に以下のアイコンを含むタスクバーが表示されます。

- システムをシャットダウンします。
- スクリーンショットを撮ります。これは USB フラッシュドライブ上の **screenshots** フォルダに自動的に保存されます。
- 全機能を備えた **Web** ブラウザを開きます。
- **SSD Utility** を起動します。SSD Utility を閉じた場合、再起動せずにもう一度実行したいときに使用します。
- (タスクバーの右側) 有線、または無線ネットワーク構成を表示および編集します。

SSD Utility のアンインストール

Windows® からアンインストールするには、コントロールパネルにある標準のアンインストール機能を使用するか、インストーラを再度実行して削除を選択します。


Linux からアンインストールするには、アプリケーション実行可能ファイルをコンピュータから削除します。

ブート可能な USB ドライブから SSD Utility を削除するには、以下の手順に従います。

- 1 USB ドライブを Windows® コンピュータまたは Linux コンピュータに差し込みます。
- 2 USB ドライブを再フォーマットします。これにより全ドライブ機能にアクセスできます。

SSD Utility の機能

SSD Utility は、ユーザーインターフェイス内の場所別に、以下の表に示された機能をサポートしています。選択したドライブでサポートされる機能のみが使用できます。サポートされる SSD が複数ある場合は、ドライブの選択リスト内のドライブにオプションが適用されます。複数のドライブに適用できる機能にアクセスするには、このリストからすべてのドライブを選択します。

タスクの手順、または表示枠の表示内容に関する詳細を表示するには、 をクリックします。ヘルプは移動可能な別のウィンドウに表示されます。このウィンドウはスクロールすることも、終了時に閉じたりすることもできます。ヘルプには、How To ビデオなどのオンラインヘルプへのリンクが含まれます。必要な情報がヘルプまたはこのガイドで見つからない場合は、当社の技術サポートチームにお問い合わせください。詳細については、このガイドの目次ページにある「インストールに関する技術サポート」をご覧ください。

オプション	タスク	機能
概要	ダッシュボード	ドライブのステータスに関する簡単な概要。以下が含まれます。 容量 - ドライブの現在の使用状況 更新 - ファームウェア、BIOS、およびデバイスドライバの利用可能な更新 インターフェイス - 物理的なインターフェイス接続のステータス ホストのメモリバッファ - SSD にバッファ領域として割り当てられたホストのメモリ量 アラート - 注意が必要なドライブの状態 健全性 - ドライブの残り寿命 SSD のセンサー温度 - SSD のセンサーで測定された温度 (SSD のケース温度よりも高い場合も低い場合もあります)
	SSD 詳細	SSD に関する詳細を示します。この機能は、技術サポートへの問い合わせ時に使用場合があります。
	システム詳細	コンピュータに関する詳細を示します。この機能は、技術サポートへの問い合わせ時に使用場合があります。
	SMART	現在の SMART 属性値を示します。この機能は、SSD の問題があるかどうかを判断する場合に役立ちます。
チューナー	SSD チューナー	オーバープロビジョニング - SSD のある領域を予約して、ドライブのパフォーマンスおよび寿命を向上します (Windows® NTFS ボリュームのみ)。
	OS チューナー	オペレーティングシステムチューナー - Windows® システムのブートドライブとして使用している場合、SSD 上のオペレーティングシステムを最適化します。
	ベンチマーク	ご利用のシステムの SSD の性能を評価するための、クイックベンチマークが用意されています。
メンテナンス	更新	ファームウェア更新、 BIOS 更新 - 選択したドライブについて、SSD ファームウェアと BIOS の高度な更新方法を提供します。この機能にはローカルファイルから更新する方法が含まれます。 ファームウェア更新および BIOS 更新 - すべてのドライブが選択されている場合、システム内のすべてのドライブが利用可能なあらゆるファームウェア更新または BIOS 更新を 1 つの操作で適用できます。

オプション	タスク	機能
	ツール	<p>Secure Erase - Data 復旧できないように SSD のすべての Data を削除します。(NVMe SSD ドライブ以外が対象)</p> <p>NVMe™ フォーマット - NVMe SSD のローレベルフォーマット。LBA フォーマットの変更およびデータの Secure Erase が含まれます。</p> <p>DAS 極性 - Drive Activity Signal の極性を変更します。</p> <p>電力損失テスト - ドライブ上の電力損失保護機能をテストします。</p> <p>SATA 速度の設定 - SSD が機能できる最大 SATA 速度を制限します。</p> <p>NVMe™ 電力状態の設定 - Power State の状態の手動設定をサポートするドライブで、Power State を手動で設定します。</p>
	Namespaces	複数の namespace をサポートする NVMe™ SSD については、namespace を作成、連結 (attach)、連結解除 (detach)、および削除できます。
メンテナンス (続き)	アラート	<p>注意が必要な可能性のあるすべてのアラート状態、および過去の発生したアラート状態の詳細レポートを表示します。</p> <p>すべてのドライブが選択されている場合、コンピュータでアクティブではなくなったドライブも含め、すべてのドライブのアラートが表示されます。</p>
	ブート可能 SSD Utility	SSD Utility を実行できるブート可能 USB フラッシュドライブを作成します。
セキュリティ	パスワード保護	パスワードによるポータブル SSD のロックおよびロック解除
設定	設定	<p>一般的なアプリケーション構成。以下を含みます。</p> <p>言語 - ユーザーインターフェイスの言語</p> <p>モニタリング - SSD をモニタリングするために SSD Utility が実行を続けるかどうか</p> <p>プロキシサーバー - インターネットへのアクセスにプロキシサーバーを使用する場合はプロキシサーバーを指定します。</p> <p>通知 - アラート、更新、およびシステムイベントのタスクトレイ通知を抑制します。</p> <p>ロギング - 技術サポートによる問題の診断を支援するためにロギングを有効にします。</p>
ヘルプ	ヘルプ	<p>お問合せ先 - オンラインサポート情報へのリンク</p> <p>サポートパッケージの保存 - システムの要約が作成され、zip ファイルに保存されます。技術サポートによりサポートパッケージの提供を依頼される場合があります。</p>
任意	アラートの表示	アクティブなアラートがある場合、各タスクリストの下に表示されます。クリックすると、詳細なアラートレポートに移動します。
	SSD Utility の更新	新しいバージョンの SSD Utility が利用可能な場合、UI の右下のバージョン番号の横に表示されます。

開発者オプション

開発者オプションは下記のキー操作によって有効になりますが、この操作によって生じる性能面などへの影響について、東芝はこれを保証するものではありません。

オプション	タスク	機能
開発者オプション	詳細なロギング	<p>「設定」表示枠から選択：キー操作 Ctl-Shift-V</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ これにより詳細なロギングの追加選択ボックスが作成されます。これで記録されるログ情報の量は増加しますが、システムパフォーマンスに影響する場合があります。
	PC に保存されたファイルからユーザー固有のブート可能 SSD ユーティリティを作成	<p>「メンテナンス」表示枠から選択：キー操作 Ctl-Shift-B</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ これにより USB ドライブにブート可能 SSD ユーティリティを作成するための「File 選択」項目が作成されます。 注意：ブート可能 SSD ユーティリティを作成する前に、USB 上のすべてのデータをバックアップしてください。このプロセスではデータが失われます。